

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600750		
法人名	社会福祉法人 豊後大野市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームふれんど		
所在地	大分県豊後大野市緒方町馬背畑1875番地		
自己評価作成日	平成26年10月26日	評価結果市町村受理日	平成27年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiokensaku_ip/44/index.php?action_kouhou_detail_2013_022_kani=true&jkyosvcCd=4472600750-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212		
訪問調査日	平成26年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の季節を感じられる環境のもと、ゆったりと過ごすことができ、その人らしい生活が送れるように職員は日々努力しています。敷地内の畑には季節の花や野菜を入居者と一緒に植えたり、草取り作業、収穫した野菜は料理に使い、入居者と職員が同じ食卓でなごみ食事を楽んでいます。運営推進会議や、自治委員・民生委員との避難訓練・地域行事に参加しふれあい、地域の人達との関係づくりに努めています。隣接するデイサービスの利用者との交流もしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の長閑な立地と、6名1ユニットの営みが特徴であり、隣接する法人内のデイサービスセンターとの連携も図られています。理念を全職員の活動の糧として、利用者への敬意・思いへの寄り添いを念頭に、家族との協同・地域との連携が図られており、地域密着型サービスの意義を踏まえた支援の向上に漸進的に取り組んでいます。職員の接遇・言葉かけ等の意識向上への研修を支持しており、利用者への傾聴と交流を考慮しながら、本人本位の日常を支える様子が伺えます。心身の継続的で健康な暮らしの営みの中で、負担を与えない声かけに留意しながら、体力保持の活動である日常動作の全般に意識を持ち、職員相互のチーム力を大切に、安心と安全な生活と家庭的な雰囲気を支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示されている理念や運営方針を具体的に理解するために会議や研修で学んだことや尊厳についても各自が意識しながら実践している。	理念への職員間における共通理解を深めながら、それらの支援の定着を図る仕組みづくりに努めており、毎月の職員会議での振り返りと周知、ケアの実践への取り組みの姿勢が伺えます。理念に基づくチームワークづくりを大切に捉えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員や地域の方々、ボランティアの方々が訪問し交流を行っている。隣接するデイサービスの利用者や行事等で交流を行っている。	地域行事(グランドゴルフ・芸能大会・収穫祭等)による交流や、施設だより(情報紙)の戸別配付や、ボランティア・実習生の受入れ、サロンへの職員の知識の発信も行われています。相互間の情報の共有を活かした関係づくりに努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方や地域の方等訪問された際に認知症の話や状況などを話している。入居申し込みに来られた方の相談も受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では委員の方々に日々の取り組みについて周知・把握していただき積極的に意見をいただく事で現場に活かし次の会議で状況報告をしている。	利用者の現状(暮らしぶり)の報告や支援状況、課題の見直しや改善等の経過報告を踏まえた意見交換が行われています。関係機関職員・地域役員・住民・家族・利用者の参加による相互発信による活発な会議運営を目指す姿勢が伺えます。	地域密着サービスにおける地域との相互の情報提供や、交流に基づく双方向の関係(相互支援)構築への取り組みなど、漸進的な関係づくりに努めています。全職員間での周知への取り組みに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中で入居者の状況・支援方法・施設の状況課題等を報告し助言・アドバイスをいただき改善につとめている。	行政機関との連携においては、推進委員会での施設状況の伝達と情報受信への取り組み、市担当者への相談等も随時に行われています。協力関係による利用者の支援の向上に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を職員間で行い、一人一人の行動の見守りを強化し身体拘束ゼロに取り組んでいる。	職員会議では、利用者の今の思いの尊重において、職員の気づき・声かけの有り方や安全面への配慮・対応について、共通理解を深めています。日常状態の把握と変化の共有の中で、行動を抑制しない介護に向け、チームで取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の勉強会を行い虐待の意味を理解し職員間で入居者についてのケア等職員会議で話し合う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修等で制度の理解は出来ているが、現入居者は家族支援が有るので活用までは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬の改定や制度改正等により、利用料の変更や、諸物価の変動により食材費の値上げを行う場合は、家族へ丁寧に説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会や面会時に要望を聞く機会を設けたり、家族会・広報誌についてのアンケートを実施し、運営に反映させられるよう努めている。家族に広報誌を送る際一緒に日常の様子がわかる写真を送っている。	家族との繋がりが支援においては、面会時の現状報告や遠方者への電話連絡を介し、家族の思いの把握と相談、職員からの提案等が行われており、三者の相互間の交流を大切に捉えながら、心地よい生活環境づくりへの取り組みに繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常にコミュニケーションがとれるように配慮を行い職員の健康状態等にも気をつけて相談しやすい環境を整えている。	チームワークに基づいた支援・個々の職員の心のゆとりにも着目しており、会議における意見交換や要望の発信、日常的なコミュニケーションを大切にしています。職員相互の分担と共同のバランスを活かした支援への取り組みの姿勢が伺えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績・勤務・運営状況等は毎月会議等で報告し把握していただいている。資格取得に向け支援を行い取得後は職場内で活かせる労働環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修に参加できるよう年間計画を策定している。また、それらの研修内容を事業所内研修や会議で報告する機会をつくっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で知り合った他事業所の方と事例検討を通してサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活状態やご本人の不安や求めていることを面談にて把握し、職員と本人の意思疎通に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求め望んでいることを理解し、どうする、どうあるべきかを職員皆で話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや状況を確認し十分な話し合いの上、適切な提案・支援ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を手伝ってもらったり、散歩等一緒に行う時に笑顔とスキンシップ、些細な声掛けで和んでもらえるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場や状況を十分理解し、本人が不安がらないよう定期的に電話で会話をしてもらったり、病院受診付き添いは可能な範囲で家族が対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区の行事に参加したり、近隣のデイへの交流を図り、これまでの関係の継続を支援している。	利用者と家族の思いの尊重と職員間での周知が図られる中で、馴染みのお付き合い関係の把握と継続的な支援や、外出時の実家訪問なども行われています。家族や知人との繋がりを大切に捉えており、電話・手紙の援助にも取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう、職員が声かけし、交流がとれるよう気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの暮らしの継続ができるよう必要な情報や注意点など家族に提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で会話を大事にし、その中で少しの変化や心の内をみぬきケアできるよう心掛けている。	傾聴できる時間帯(夕食後・夜間帯)と場の雰囲気大切に、一人ひとりの思いへの気付きとその把握に努めながら、職員相互の情報の共有が図られています。一日の暮らしの流れにおいて、個々の思いを生活に繋げる支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅での生活環境や馴染みの人や場所等、日常の会話や行動から情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身状態を把握した上で、今までの生活歴や、本人の要望を基に一日が過ごせるよう対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族には、日頃の関わりの中で思いや意見を尋ねながら、計画を作成してる。	毎月のモニタリングでは、個々の利用者の状況把握と職員間の意向の共有を支援に繋げています。半月毎の計画の見直しに当たり、利用者のニーズや家族の意向に添った策定に取り組んでいます。状況に即した臨機応変な対処に努めています。	個々の利用者の安全と安心感のある豊かな日常の支援に努める姿勢が伺えます。個人目標の達成に向けた共同の支援への取り組みにおいて、実践の経緯に着目したシステムづくりに期待が持たれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の変化、気づいた点、見直しが必要か確認するため、月一回職員間で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の要望に応じて、通院や外出時の送迎等支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内のボランティア団体やサロンとの交流をしている。また、理美容店の訪問サービスを利用している。運営推進会議の中で、自治委員・民生委員からの意見を交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医や医療機関がないか相談して、希望する医療機関へ受診できるよう支援している。	入所後も主治医の変更を勧めたりせず、利用者のかかりつけ医となっています。受診には家族も同行されています。家族が同行出来なかった際には、受診結果の報告を実施されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中でとらえた情報を、看護師に報告し適切な看護や医療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ既往歴等情報提供している。入院中は職員が面会に行き、家族や病院関係者と情報交換し、安心して治療や早期に退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化した場合や終末期についての話し合いの場を持ち、前向きに検討している。終末期ケアの研修に行くことで知識を深め、職員にも研修内容を周知している。	終末期(看取り)に向けての話し合いがされており、終末期ケアの研修に参加し、得た知識を職員にも周知されています。看取り支援においては、検討課題として引き続き全職員間における協議が図られておりますが、看取りについての具体的な計画はまだなされていません。	協力医療機関、医療従事者と連携をし、安心して納得した最期を迎えられる支援が期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すぐわかる位置に緊急連絡先を掲示し、職員にも周知している。地域で行われる救急講習の参加を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月施設内で避難訓練を実施し、参加した職員に意見を聞いている。地域住民と消防署との夜間避難訓練を11月に実施した。	毎月避難訓練を行い、年一回地域住民と消防署が参加し、夜間の避難訓練を実施しています。調理も火を使わずIH対応とし、火災にも配慮がなされています。水や食料の備蓄もあり、年一回チェックを実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間事業計画の事業所内研修に接遇やプライバシーといった項目を取り入れ、実施している。職員も本人の気持ちを大切に考えた言葉かけや対応をするよう努めている。	事業所内で接遇やプライバシーの研修を実施しています。利用者をさんづけで呼び、誇りやプライバシーを損ねることがないように、人格を尊重しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事業所本位ではなく、本人が選択できるような働きかけや、意見や相談をしやすい環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調に配慮しながら、自分のペースで一日過ごせるように常に声かけや見守りをし、無理がないように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好きな服を着れるよう支援し、夜間はパジャマに着替えてもらい、日常着と区別している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝える人には食事の準備から片付けまで職員と一緒にいき、入居者と職員とが一緒にテーブルで食事をしている。ホットプレートを出して、皆で囲みながらお好み焼きやフレンチトーストを作ることもある。	献立は一週間ずつ利用者の希望も取り入れながら作成しています。片づけ等も利用者と共に行い、利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しく食事が出来るよう雰囲気を大切にされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせて料理を提供し、食事の残量を記録している。水分をあまりとらない人には声かけをし、ゼリーにして提供したり、数回に分けて水分を取ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをし、一人一人の力に応じて見守りや一部介助をしつつ歯磨きをしてもらっている。一週間に一回薬剤に漬けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄することを大切に、個別に排泄の記録をとりその人に合った声かけや誘導を行っている。	排泄チェック表を使用し、時間を見計らって誘導し、トイレでの排泄が出来るよう支援されています。失敗した場合でも本人が傷付かないようさりげない対応をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らなくても排泄ができるよう、日中の運動や食事の内容を工夫し自然排便ができるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎朝バイタルチェックをし、本人の体調に気をつけながら入浴を行っている。入浴を拒む人には声のかけ方やタイミングを図っている。また、本人が気持ちよく入浴できるよう入浴剤を使用している。	利用者の意向に合わせた入浴支援がなされています。手すりや椅子等を設置し入浴剤等も準備され、安全にゆっくり入浴が楽しめるよう支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションや体操をし、生活リズムが崩れないように努めている。夜眠れない時は、話を聞いたり、温かい飲み物を飲んでもらうなど、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルをケースに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。薬の処方や容量が変更されたり、本人の状態変化が見られるときは、いつもよりも詳細な記録を取るようにし、看護職員や協力医療機関との連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜・漬け物作り、団子汁、草取り等利用者の経験や知恵を発揮する場面をつくっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者の希望により、毎月外出するようにしている。また、情緒不安定になっている入居者は自宅に行き、安心していただけるよう支援している。家族会には、入居者や家族から意見を聞き、場所や日程などを決めている。	利用者の希望(思い)の把握に努める中で、外出に際し、事前に行き先のトイレや食事場所などの確認がなされています。地域(馴染み・実家)訪問を支援しており、四季折々の催し物や周辺状況等を確認しながら、個々の利用者の楽しみ事の支援に取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安心や満足に向けて、家族と相談しながら支援している。移動販売車では、希望する商品を自由に選んでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いた時は、本人自らが電話や手紙でお礼を言えるよう支援している。年賀状の宛名書きや一言を書いてもらい家族や知人に発送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所がわからなくて混乱しないよう、トイレや居室には大きく表示している。庭には季節の花等を植えて、玄関・トイレ・ホールに花を飾ったりしている。廊下には季節ごとの行事の写真を貼っている。	食堂や居間は一体的な作りで全てが視野に入り、フロアには花や利用者の作品や行事の写真などが飾られており、利用者が過ごしやすいよう配慮がなされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、季節に応じて椅子やソファ、畳、こたつ等を置いてくつろげる空間を作っている。居室の裏庭には花を植えるスペースがあり庭づくりができるようにしている。玄関にベンチを置き、ほっとできる居場所作りにも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して、新しい家具を置くのではなく、使い慣れた家具を居室に持ち込めるように配慮している。また、本人が望めばラジオやテレビも居室で見られるようにしている。	思い出の品々が持ち込まれ、利用者のその人らしい居室作りや居心地の良さに配慮がなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・浴室・トイレなどに、手すりや滑り止めマットを設置し安全に配慮している。ADL等変化が生じたときは、本人の不安・混乱材料を取り除き、夜間の転倒防止のためにベッドの配置を変えたりして、自立支援につなげている。		